

教育子午線

Kyoiku-Shigosen



国立大学法人
兵庫教育大学

October, 2016

vol.42



◎教育最前線

理論と実践の融合
兵教大の教育研究

兵庫教育大学が取り組む 「理論と実践の融合」

中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」(平成18(2006)年)では、「教員に対する揺るぎない信頼を確立するための総合的な改革の推進」のための方策として、「教職課程の質的水準の向上」や「教職大学院の創設」等が提言され、その重要なポイントとして「理論と実践の融合」が説かれています。特に教職大学院のカリキュラムの構築に関し、「学校現場における実践力・応用力など教職に求められる高度な専門性を育成するためには、学校教育における理論と実践との融合を強く意識した体系的な教育課程を編成することが特に重要」とされ、従来の教員養成カリキュラムの考え方からの大きな転換点となりました。また、同答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」(平成24(2012)年)では、大学と学校現場および教育委員会による連携・協働が「理論と実践」を効果的に融合させ、往還を図ることができると提言されています。

教育をめぐるこのような社会的背景の中で、兵庫教育大学では、常に学校現場や教育委員会との連携・協働を図りながら、その時々々の教育をめぐる課題や社会的ニーズ等の解決、さらには学校現場における実践の改善に貢献するための施策に取り組んできました。

平成23(2011)年度から開始した『「理論と実践の融合」に関する共同研究』もその取り組みの一つです。本学独自の取り組みとして開始して以来、今日までの5年間に取り組んだ共同研究は24件に達します。そのテーマは「幼保一体化」「震災後の子どもの心のケア」「障害児のインクルーシブ教育」「いじめ予防」など、学校現場からの要請に応える内容ばかりです。これらを大学だけでなく学校現場、教育委員会との共同で取り組んできたことは極めて重要です。また、終了した共同研究がさらに新たな取り組みに発展している例も数多く、このことは本学の誇るべき成果であると考えています。

現在、11件の共同研究がまさに進んでいるところです。これらの取り組みが今後の学校現場における教育の質向上に大きく貢献することを期待しています。

学長 ふくだ みつ ひろ
福田光完



教育最前線



仮説的学習モデルを授業に適用している様子(関連ページ▶P5)



共同研究活動ポスターセッション(ディスカッション)

理論と実践の融合 兵教大の教育研究

現代の学校現場における複雑化・多様化した課題解決のために、大学と学校現場、教育委員会等が共同して「理論と実践の融合」に取り組むことが求められています。創設以来、「理論と実践の融合」を使命としてきた兵庫教育大学の取り組みについて、平成23(2011)年度から開始した「『理論と実践の融合』に関する共同研究」から紹介します。



スウェーデンでの調査(関連ページ▶P4)



実行機能等測定結果の検討(関連ページ▶表紙、P4)

「理論と実践の融合」に関する共同研究 進行中の研究活動一覧

27年度~28年度	自立活動における「身体の動き」の指導効果に関する研究 -知的障害児と肢体不自由児を対象として-
	研究代表者 石倉健二 (障害科学コース教授)
	聴覚障害児のインクルーシブ教育:合理的配慮としての手話活用の実践的検討
	研究代表者 鳥越隆士 (障害科学コース教授)
	反転授業でのデジタルコンテンツづくりを始めとして、さまざまなアクティブ・ラーニング(AL)型授業づくりとその授業実践
	研究代表者 吉岡秀文 (理数系教育コース教授)
28年度(1年間)	いじめ予防を目的とした授業プログラムの研究2
	研究代表者 松本 剛 (生徒指導実践開発コース教授)
	被災地宮城県の子どもの実行機能及び自己制御能力の向上に関する研究
	研究代表者 松村京子 (学校心理・学校健康教育・発達支援コース教授)
	地域における算数の授業研究会を通じた、教師の力量形成プログラムの開発
	研究代表者 指熊 衛 (附属小学校教諭)
	防災・減災に関する児童生徒のアクティブな思考・判断を促す社会科授業モデルの開発と実践
研究代表者 山内敏男 (授業実践開発コース准教授)	
発達障害のある生徒へのナラティブ・インタベンション・ガイドブックの作成	
研究代表者 高野美由紀 (障害科学コース教授)	
東日本大震災の被災後5年間における児童生徒への教育的な心理的支援に関する研究	
研究代表者 藤原忠雄 (学校心理・学校健康教育・発達支援コース教授)	
小学校のスマートフォンを利用した漢字学習における自覚できない学習効果の可視化とフィードバックによる意識変化の測定	
研究代表者 川崎由花 (グローバル化推進教育リーダー養成カリキュラム研究開発室准教授)	
メタ言語能力の活性化による国語科と英語科の相乗的学習プログラム開発	
研究代表者 菅井三実 (言語系教育コース教授)	

理論と実践の融合

兵教大における「理論と実践の融合」とは

現 代の学校教育における理論と実践的課題について

構造的・体系的に捉え、諸課題の解決を目指すためには、教育の理論知と実践知との融合を図る視点に立った教育研究が必要です。また、学校現場の複雑化・多様化した課題を解決するために、大学と学校現場、教育委員会等が共同して教育研究に取り組むことが求められています。このような共同研究を行うことは、兵教大のミッションの一つであ

る「教育実践学の推進」に寄与することであるとの考えの下、平成23(2011)年度から「理論と実践の融合」に関する共同研究を開始しました。研究期間は原則2カ年、今日に至るまで、35件(終了24件、進行中11件)を実施しています。

共同研究を推進することを目的として、兵教大の教員(教授、准教授、講師、助教)や附属学校園の教員を対象に公募し、学内予算から「理論と実践の融合」に関する共同研究活動経費として助成しています。

これまでに、教育における喫緊の課題を中心にさまざまなテーマ、観点に関する研究を採択し、実施してきました。いずれの研究も、共同研究の成果を実際の学校現場などに還元することによって、兵教大の教育実践の発展に寄与しています。

学校教育の実践に主眼を置く同事業は、学校現場や教育委員会のニーズを踏まえながら研究領域を積極的に開拓し、「理論と実践の融合」に関する学際的な

共同研究を推進することを目的として、兵教大の教員(教授、准教授、講師、助教)や附属学校園の教員を対象に公募し、学内予算から「理論と実践の融合」に関する共同研究活動経費として助成しています。

今回は、26(2014)年度に採択され、2カ年の研究を終えた3件の共同研究について、「研究レポート」として紹介します。これらの共同研究の成果から、「チーム学校」として取り組む教員養成大学の在り方について共有していただければ幸いです。

公募時に参考として提示しているテーマ・観点

研究テーマ	
(1) 学力向上・カリキュラム	
観点	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 教科教育と教科内容の研究者の共同による研究 ▶ 学力向上につながる指導法の在り方 ▶ 学力向上につながる教師教育 ▶ 幼小中高連携カリキュラム開発
(2) 生徒指導・幼児教育	
観点	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 包括的生徒指導に関する研究 ▶ 発達障害と生徒指導 ▶ 幼保一体化
(3) 心理臨床・特別支援教育	
観点	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 災害にともなう被災者の心のケア ▶ 地域と連携したインクルーシブ教育
(4) 社会連携・社会教育	
観点	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域と連携した学校教育 ▶ 社会や自然の中での教育 ▶ 学社融合としてのソーシャルインクルージョン



なすかわともこ
名須川知子 理事・副学長

終了した研究レポート

幼保一体化施策に関わる実証的研究と教員研修モデルの構築

平成24(2012)年度のわが国における子育て3新法に合わせて、学内の教員と自治体で共同研究を行いました。幼保一体化の最先端国のスウェーデン調査や、本学近隣の自治体との一体化に向けて進める共同の話し合いや幼保相互の保育を見合う検討会、公開シンポジウムのほか、兵庫県内の実態調査などを実施。そこから、幼保における保育文化の相違という壁があり、今後の一体化の保育の質向上には保育者の資質形成が大きく関与していることが明らかとなりました。そこで、9回にわたる保育者研修モデルを提示し、さらに、本大学院独自の「子育て支援コーディネーター」資格を付与できる仕組みをつくりました。

この研究は、26(2014)年度から始まった「大学の機能強化としての就学前教育専門職養成の高度化と幼小連携を含めた総合的カリキュラム開発」(文科省補助金)の基盤となり、現在子育て支援ルーム(GENKi)も設置され、保育者の研修プログラムの実施も含めた教育・研究・地域貢献へとつながっています。



学校心理・学校健康教育・発達支援コース
まつむらきょうこ
松村京子 教授

進行中の研究レポート

被災地宮城県の子どもの実行機能及び自己制御能力の向上に関する研究

東 日本大震災により甚大な被害を受けた宮城県では、震災後も、不登校の増加に加えて、学業面、興奮や混乱などの情動面、落ち着きのなさ等の行動面の問題が報告されています。これらは、実行機能、自己制御能力の問題と捉えることができます。子どもは授業中、その場の学習以外の思考・情動や行動を抑制して先生の話に耳を傾ける自己制御が必要ですが、これは脳の前頭前野が関与する実行機能が基盤となります。

そこで本研究では、これらの能力向上を意図して、筆者が開発し、兵庫や大阪でその効果が実証されているSocial Thinking & Academic Readiness Training(START)プログラム(医学映像教育センター)を宮城県利府町の協力の下、幼稚園で実施しました。実施群と統制群との比較を行ったところ、実施群の子どもは実行機能の要素である抑制能力等が有意に向上しました。引き続き小学1年生でも実施し、同様の結果を得ています。

今後は、鳥取県の小学校でも実施する予定です。

◎終了した共同研究の詳細は、兵教大「理論と実践の融合」に関する共同研究ウェブサイト <http://www.hyogo-u.ac.jp/riron/> で見ることができます。



小学校教員養成特別コース
ついでしげき
筒井茂喜 准教授

◎研究メンバー

- 筒井茂喜** (兵庫教育大学准教授)
- 藤原典英** (兵庫教育大学附属小学校教諭)
- 佐々敬政** (明石市立和坂小学校教諭)
- 中島友樹** (西宮市立甲陽園小学校教諭)

関係的理解を促す体育授業モデルの開発 —5年生バスケットボールの授業を事例として—

「科学技術の革新的変化」「高度情報化社会の進展」「グローバル化の拡大」による社会構造の変革が訪れようとする中、学校教育では「身につけた知識・技術を活用することで、よりよく問題を解決できる児童生徒の育成」に資する授業の構築が求められています。

本研究で用いる「関係的理解」という概念は、近年、主に算数・数学教育において注目されているものです。「関係的理解」とは、学習内容の意味や基本的概念の理解を意味しており、「関係的理解」によって得られた知識・技術は、問題の文脈や形式が変わった場合にも活用できるとされています。

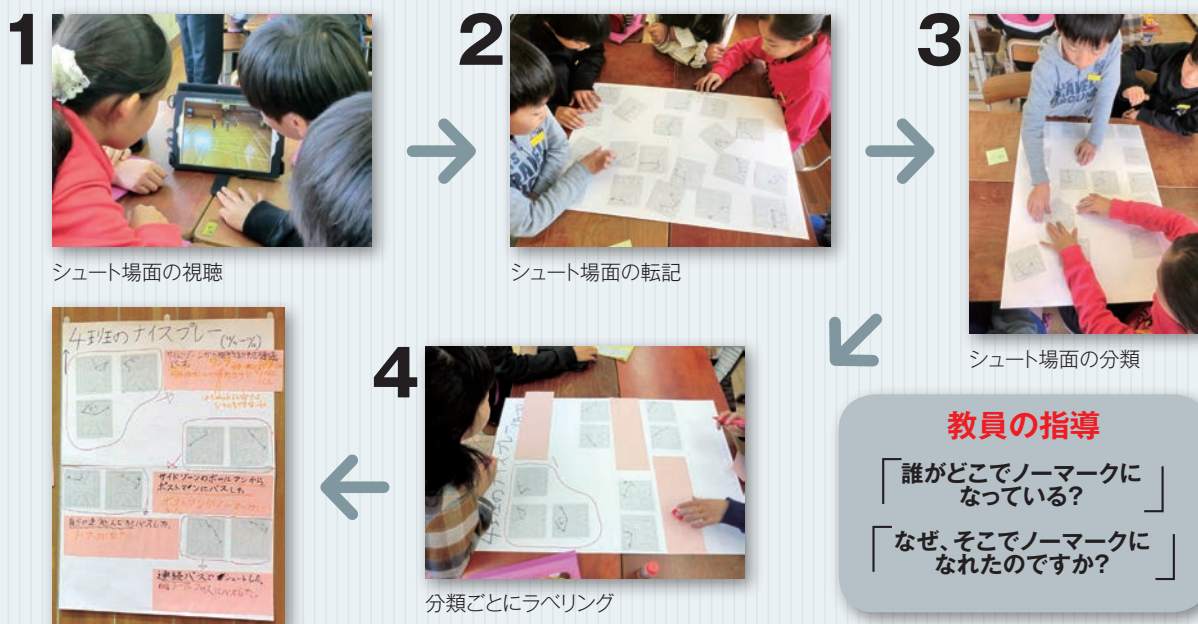
体育では正しいとされる体の動かし方、動き方の習得に主眼を置いた教え込み型の授業が数多く見受けられます。そのような授業には、「なぜ、この動き方をするのだろうか」「この体の動

かし方にはどのような意味があるのだろうか」という思考を働かせる余地はなく、また、その必要もありません。児童生徒は教員から指示された知識・技術の習得にただ励むだけです。しかし、このようにして得た知識・技術では、問題場面や状況が変わると活用できない可能性があります。すなわち、いろいろな状況下での問題の解決に活用するためには、「関係的理解」によって得られた汎用性の高い知識・技術が求められるといえます。

本研究では、試合における個別的・具体的戦術を整理・分類することで、その裏側にある戦術的原則を帰納的に導き出す「関係的理解」を促す学習モデルを仮説的に作成。小学5年生のバスケットボールの授業に適用し、汎用性の高い知識・技術ならびに汎用的能力としての帰納的思考力の習得を目指した体育授業モデルを開発しました。

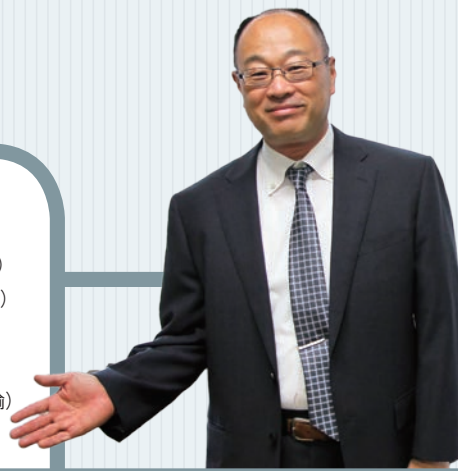
戦術的原則を導出する学習

次と次の間に設定された「戦術的原則を帰納的に導出」する学習



◎研究メンバー

- 米田 豊** (兵庫教育大学副学長)
 - 山内敏男** (豊川市立音羽中学校教諭(研究事業取り組み時))
 - 王子明紀** (三田市立上野台中学校教諭(三田市学校指導員))
 - 佐々木豊** (鹿児島市立和田小学校教諭)
 - 植田真夕子** (弥富市立日の出小学校教諭)
 - 下池克哉** (東串良町立東串良中学校教諭)
- ほか15人



授業実践開発コース
やまうちとしお
山内敏男 准教授

汎用的な能力の育成を意図した社会科教科書と授業の開発 —小中学校「環境」単元を事例として—

「習得・活用・探究」をキーワードにした授業を行うことが求められています。しかし、この理念は必ずしも学校現場に浸透しているとはいえません。問題の根底には、教員が学習指導要領改訂の理念を具体的な授業に落とし込むことの難しさがあります。そこで、このことを克服する具体例として、社会科で育むことができる汎用的な能力「思考力」「問題解決力」「他者と協働する能力」の育成を目指し、教科書と授業を開発しました。これらの能力を育成するために重視したのは、次の3点の学習です。

- 1 出来事を原因と結果の関係で捉える。
- 2 1を踏まえ、説明力が広い知識(=社会諸科学の研究成果)を習得する。
- 3 習得した知識を基に価値判断、意志決定をする。

取り上げたのは環境学習です。授業で取り扱う場面は増加している一方で、災害や環境破壊の様子などを覚えることにとどまる授業、「環境に優しいもの=善」という価値観を無批判的に受け入れさせる授業が多い傾向にあると捉えたからです。

開発した中学校公民的分野の単元「現在のエコは未来のエコか」では、主発問を「どこまで環境に対する配慮をすべきか」「どこまで環境に負荷をかけることを認めるか」と設定しました。

授業では、自然エネルギーを活用した発電の在り方について、さまざまな資料を基に子どもがゼロベースで検討しました。そして、より望ましい未来の姿を考えさせるため、資料からの読み取りを通して形成された社会認識を基に、事実の分析的検討を経た価値判断・意志決定場面を設定しました。

「環境を守るべきだ」と主張するだけでは、子どもの社会認識形成にも市民的資質の育成にも寄与しません。社会科としては、「現在の暮らしの維持と環境保全のバランスはどのように取るべきか」といった社会的論争問題を提示し、解決を迫っていくことが大切です。本研究の成果に基づく「環境」単元の授業モデルの開発をさらにに行い、授業実践を積み重ねていくことで、論の有効性を検証していきたいと考えています。

公民的分野 「現在のエコは未来のエコか」の教科書モデル

The image shows a collage of educational materials. It includes a main text area with a title '現在のエコは未来のエコか' (Current Eco is Future Eco?), a '考えよう' (Think about it) section with numbered points, a bar chart showing energy production trends, and a table with data. There are also smaller text boxes and images of a landscape.

◎研究メンバー ※所属・職位は平成26(2014)年4月時点

- 富永良喜 (兵庫教育大学教授)
- 本間友巳 (京都教育大学教授)
- 山本 奨 (岩手大学教授)
- 定池祐季 (東京大学大学院特任助教)
- 森本晋也 (岩手県教育委員会指導主事)
- 淀澤勝治 (兵庫教育大学准教授)
- 大谷哲弘 (岩手県立総合教育センター研修指導主事)



臨床心理学コース
とみながよしき
富永良喜 教授

いじめと災害ストレスへの心の健康教育と道徳教育と防災教育の包括的教育プログラムの作成と検証

いじめと災害は児童生徒に強いストレスを与え、人生に否定的な影響を及ぼすことがあります。そこで、心の健康教育、道徳教育、防災教育の専門家が協働で授業や活動プログラムを作成することを試みました。この誌面では2つ紹介します。

①災害トラウマの視点を取り入れた高校生へのいじめ防止授業の効果

ある高校の1年生6クラスで1コマの授業を行いました。事前・事後に、この2週間でのいじめ被害行動と加害行動の有無といじめ意識アンケートに回答してもらいました。

災害だけでなく、
つよいストレス(とてもショックな
ストレス・出来事)をひきおこす
出来事があります。それは…



- ◎物をかくす、物をとる、持ち物に落書きをする
- ◎プロレスの技をかけて痛くする、なぐったりける
- ◎いやなあだ名で呼ぶ、悪口をいう、みんなで無視する

授業では、いじめの構造を知る、イライラしたときの適切な表現方法を学ぶ(自己コントロール)、いじめとトラウマを学びました。その結果、いじめ加害得点の有意な減少と、自己コン

トロール得点とトラウマ理解得点に有意な望ましい変化が見られました。しかし、「いじめられる人にも問題がある」といいたいじめの誤った意識には変化が見られませんでした。

②被災地の保護者への防災教育と心のケア研修会

全学年で防災教育と心のケアの授業が行われた後、保護者を対象に研修会が開催され、中学生の時に北海道南西沖地震で奥尻島の津波を経験した定池祐季先生(東京大学防災センター助教)と私が30分ずつ講話をしました。回答を得た25人のアンケートを分析しました。その結果、トラウマ回避へのチャレンジがトラウマの克服に必要なだと初めて知った人が36%でした。また、日ごろの減災・防災活動が生きる力になることを初めて知った人が52%でした。

今後、どの学校でも、心の健康教育・道徳教育・防災教育を融合した年間計画を作成し展開することで、いじめの抑止と災害に強いまちづくりが期待されます。

西條剛志副校長、定池先生と。チューリップはこの高さまで津波が来たことを示しています。防災教育と心のサポート活動を取り入れることで、いじめのない学校を実現しているとのことでした。



20th Anniversary
1996-2016

大学院連合学校教育学研究科 創立20周年記念式典を開催しました



①(右から) 荒木兵庫県副知事、出口東学大学長、柳澤教員養成企画室長、福田光完兵教大学長、佐藤芳徳上教大学長、阿部宏史岡大副学長、山下一夫鳴教大学長、松村研究科長、西岡伸紀研究主幹 ②記念講演会で講演するホーン教授 ③虫明教授によるソプラノ独唱 ④濱名外喜男初代研究科長によるスピーチ

9月24日、大学院連合学校教育学研究科の創立20周年を記念し、神戸ポートピアホテルで式典をはじめ、講演会や祝賀会を開催しました。

式典には、文部科学省教員養成企画室の柳澤好治室長、東京学芸大学の出口利定学長、兵庫県知事代理の荒木一聡副知事、他、兵教大附属中学校の卒業生でもある藤井比早之衆議院議員らの来賓を迎え、構成4大学の役員、名誉教授、関係教職員など約130人が臨席。柳澤室長らの祝辞の後、松村京子研究科長から、学位授与数が課程博士268人、論文博士127人に達したことや、平成28年4月から入学定員を24人から32人に増員したことなど20年の歩みが報告されました。

続いて、記念講演会では「教育における、「知る」ことの意味 学習に関する新しい視点と、教育研究のさまざまなアプローチ」と題し、兵教大の交流協定大学の一つである米国ヴァンダービルト大学ピーボディ校のイライナ・ホーン教授が講演。その後、同ホテル30階のスカイラウンジ「ブレンデトワール」で開いた祝賀会では、オープニングセレモニーとして岡山大学の虫明眞砂子教授にソプラノ独唱で花を添えていただきました。松村研究科長による乾杯の後、来賓など多くの方からスピーチもいただき、約80人の参加者が和やかに懇談しました。

連合大学院の概況

区分	人数等
総志願者数	1,115人…うち現職教員484人(43.4%)
総入学者数	569人…うち現職教員315人(55.4%)
在学者数(28年5月1日)	132人…うち現職教員109人(82.6%)
学位授与数(28年3月末日)	課程博士268人、論文博士127人
進路状況(28年3月1日)	国公立大学教員93人、高専教員7人、小中高教員32人、その他教育機関等55人
研究科教員数と配属学生数(28年5月1日)	兵庫 教員89人 学生47人
	上越 教員68人 学生22人
	岡山 教員74人 学生29人
	鳴門 教員77人 学生34人
	計 教員308人 学生132人

連合学校教育学研究科とは



平成8(1996)年4月、兵庫教育大学(基幹大学)、上越教育大学、岡山大学、鳴門教育大学の4大学の連合研究科として、教員養成系大学では日本で初めて設立された博士課程。「教育実践学」という新たな学問分野の構築を目指し、高度な研究指導能力を持つ実践者や実践に根差した研究者の育成を使命としている。修了生の約6割が大学・短期大学の教員として、教員養成などに関わっている。

新たな飛躍に向けて



大学院連合学校教育学研究科長
まつむらきょうこ
松村京子

本 研究科ではこれからも研究成果を広く教育界や社会に還元するとともに、教育実践研究を推進する研究者の育成を進めていきます。また、教育実践学が一層、充実・発展したものと成るよう、研究科構成員の力を高め、国内外での研究交流を促進していきたいと考えています。

20年のこれまでの歩みをさらなる飛躍への貴重な礎石として、本研究科がますます発展していくよう、今後ともご支援、よろしくお願ひ申し上げます。

この先生にズームイン

コミュニケーションツールとしても◎

中学、高校と卓球部で、自宅には4分の1サイズの卓球台がある。かつてはよく息子たちと練習したが、最近は忙しすぎてプレーする時間がないと残念がっている。また、不登校の子たちと一緒に楽しんだこともあったとか。「卓球は相手とのやり取りだから、コミュニケーションを取るのにいいんです」



子どもの心をつかむ相棒

年季の入ったサルのパペット“ウッキー”は「息子が中学生の時に買ってきたものだったかな」。虐待を受けた子などが特に関心を示すといい、自分の心を代弁してくれる自己表現のツールとして世界各国の子どもたちの心を解きほぐしてきた。



庭いじりが好き

息子の高校進学を機に13年前に家を建てて以来、自宅の庭に藤棚を作ったり木を植えたりして四季折々の変化を楽しんでいる。「4月は桜、5月、6月は藤の花がとってもきれいですよ」。電動草刈り機で一気に雑草を刈り、きれいにするのも富永先生の役割だという。



先生に質問!

A

安全と安心の確保です。そして、保護者と連携し、24時間、見守る必要があります。学校が再開され、少しずつ机に向かっていく中で、一見大丈夫そうに感じられる子ども、家で別の顔を見せていることがありますから。

Q

災害などで心の傷を負った子どもたちに大人がまずするべきことは。

災害などで心の傷を負った子どもたちに大人がまずするべきことは、頼もしい限りです。

A

眠れない子が多い小学校低学年のクラスでは、担任の先生にくまモンの着ぐるみ姿で「夜、眠れないんだ」と言ってもらいます。「どうやったら眠れるか、みんな教えてあげて」と呼び掛けると、どんどん手を挙げて答えてくれます。このように子どもが安心できる場で、怖かった経験に触れることが肝要です。こうした授業を熊本県内の各校で展開するために指導案が作られたのですが、中心となって作成した熊本県立教育センターの二人は、兵教大大学院の修了生です。他にも、心のケアが求められるさまざまな現場で修了生が活躍しており、頼もしい限りです。

Q

どのような内容ですか。

熊本へは今も頻繁に出向いており、若手の支援を通じて開発した防災教育と心のケアをセットにした授業を小学校などで行っています。

A

阪神・淡路大震災での支援活動をきっかけに、被災地の子どもたちの心のサポート事業を展開してきました。若手では東日本大震災の年から毎年、全公立校の児童生徒約14万人の心と体の健康観察をしています。8年間継続する予定のプロジェクトで、世界に例のない規模です。一方、熊本へは今も頻繁に出向いており、若手の支援を通じて開発した防災教育と心のケアをセットにした授業を小学校などで行っています。

Q

若手県や熊本県の教育委員会のスパーバイザーとしても活動されています。

お酒が大好き

種類にこだわりはなく、「何でも飲む派」。少し前までは毎日飲んでいたので、「夏にオリンピックストレスで熱が出たので、しばらくお酒をやめました」とのこと。ちなみにリオ五輪で夢になったのは、やはり卓球。「ずっと見ていました。感動しましたね」



学校現場で活躍

小学校で授業をする際などに持って行くくまモンの着ぐるみ。「担任の先生にくまモン姿を見るだけで、子どもたちはゲラゲラ笑って大喜びするんですよ」。手描きのイラストは、ストレスマネジメントの授業などで感情を説明する際に活用している。



とみながよしき 富永良喜 教授

臨床心理学コース

昭和58(1983)年九州大学大学院教育学研究科博士課程を単位取得退学、平成25(2013)年に博士(心理学)取得。産業医科大学産婦人科助手を経て、59(1984)年に兵教大助手、同附属障害児教育実践センター助教、同附属発達心理臨床研究センター教授などを歴任し現職。臨床心理学、トラウマ心理学を専門とし、特に自然災害や事故などで傷ついた子どもたちへの心理的支援に関する研究に注力し、国内外の被災地などで支援活動を展開している。授業は「臨床心理学特論」(修士課程)等を担当。

同窓生からの手紙

滋賀県出身。平成28(2016)年、大学院修士課程認識形成系教育コース(社会)を修了し、4月から滋賀県立東大津高校の教員に。現在、1年生の世界史と2年生の倫理を担当している。



こすがたかのり
小菅貴紀さん
滋賀県立東大津高校教諭

実習で学んだことを胸に日々奮闘しています

2

年間の大学院生活では、現職教員を含むコースの仲間や社会人を経験した寮の仲間など、さまざまな年齢・立場の方々と共に学びました。また、就職アドバンスプログラムの実習では、校長OBである指導教員や実習先のメンターの先生から細やかな指導を受けることができ、教員としての自分自身の強みと弱みを見つめ直す機会となりました。指導教員の先生の「詰めが甘いから気を付けなさい」という言葉は、今もしっかりと胸に刻んでいます。大学院では、教科に関する

専門的な知識だけでなく、教員として大切なことを学べた、恵まれた学生生活を送ることができたと感じています。

学校現場に入り、5カ月がたちました。分掌の仕事、教科指導、部活動など初めてのことがばかりですが、先輩教員に支えられながら日々、教育活動に取り組んでいます。大学院での出会いと、この5カ月を振り返ると、先輩方の助言を素直に受け入れる謙虚さが大切だと実感しています。先輩方から多くのことを学びながら、生徒たちと共に成長していきたいです。



←長野県菅平でのラケット部夏合宿の様子

LETTERS FROM OB & OG

丹波市出身。平成13(2001)年学校教育学部幼児教育専修を卒業後、丹波市内の幼稚園に勤務。第1子と第2子続けての産休・育休で5年半、子育てに専念。今年度から職場に復帰した。



ひがしのともこ
東野倫子さん
丹波市立崇広幼稚園教諭

育児中の経験が視野を広げるきっかけに

→「くりぼん会」でのわらべ歌遊びの様子。丹波地域の親子が集まり里山遊びをする同窓会には、毎回10組〜20組が参加しています



産 休・育休が明け、この4月から幼稚園教諭として復帰しました。大学を卒業後、幼稚園の教育現場で働いていた私にとって、子育てに専念していた5年半の間に出会った人々や出来事は、価値観や教育観を大きく広げるきっかけとなりました。特に、親子で多くの時間を過ごした「くりぼん会」では、とても豊かで幸せな時間を過ごすことができました。子どものペースで里山や川でお散歩を楽しんだり、一緒に採った自然の恵みを使ってお菓子を作ったり…。子どもたちは大人の気配を感じな

がら、群れて遊んで伸びていく。それを大らかに見守るお母さんたち。いろいろな人との関わりの中で成長していくわが子たちとの緩やかな時間。そんな中で、一人一人をありのまま受け止めることや、子ども自身がもっている伸びていく力を信じて待つことの大切さを再認識しました。

久しぶりの保育で悪戦苦闘の日々ですが、目の前の子どもたちとしっかりと向き合えるような保育をしていきたいです。在学生の皆さんも、その時、その時の出会いを大切にしていてください。

▶ 同窓会・都道府県連携推進本部からのお知らせ

教育実践研究活動に係る表彰について

8月6日、7日に大阪市で開催した第36回大学院同窓会大阪大会で、平成28(2016)年度「教育実践研究活動等に係る表彰」を行いました。この表彰は、教育実践研究活動等に顕著な成果を挙げ、大学や大学院同窓会の名誉を著しく高

めた修了生が対象。今年は4人を表彰しました。詳しくはHyokyo-netをご覧ください。

◎表彰者(敬称略)

嬉野賞 / 大前泰彦(14期・生徒指導、和歌山県)、小西豊文(3期・教育方法、大阪府)、藤井一光(7期・社会系、兵庫県)

奨励賞 / 小橋拓司(24期・社会系、兵庫県)

「人の目標、日本人になること」。6月に出場した第57回外国人による日本語弁論大会で、そう力強く宣言したフランチェニー・エリーザさん。彼女にとって、日本人になることは、外国人のお客さまとしてではなく、日本人と同様に扱われることを指す。リクルートスーツを着て就職活動で緊張したり、結婚式に真っ白な着物で「よろしくお願ひします」と相手にあいさつをしたりしたいと流ちょうな日本語で夢を語り、見事、文部科学大臣賞を受賞した。

イタリア・トリノで生まれ育ったフランチェニーさんが日本語の勉強を始めたのは、大学に入ってから。外国語の中でも特に漢字に興味を持ち、中国語と迷った末に、外国語学部で日本語を専攻。予備知識は全くなく「あいうえお」を学ぶところからのスタートだった。

2年前に金沢でホームステイをしたのを機に日本が大好きになり、「また戻りたい」と願うように。そして、国費外国人留学生の選考試験に合格し、昨年9月に兵教大の特別聴講学生として来日。数ある大学の中から兵教大を選んだのは、都会が苦手だったのと、教育分野に興味を持ったからだという。「びっくりしたのは、授業が日本人の学生と一緒にだったこと。最初は難しかったけれど、日本人として扱われたことが本当にうれしくて、それだけで頑張れました」。勉強以外にも、部活動やアルバイトなどにも積極的に挑戦し、キャンパスライフを満喫してきた。

とりわけ夢中になったのが、よさこい部での活動だ。全身を使って表現するパフォーマンスは想像以上に大変だったというが、仲間と稽古を重ねて絆を深め、全国各地のイベントで演舞を披露してきた。4月からは1年生がたくさん入ってきて、先輩気分も経験。「エリーさん、〇〇です」と、いつも敬語で話し掛けてくれ、本当にすごいです」と笑顔が弾けた。

ずっと日本に住み続けたいという夢はまだ道半ば。「小学校の先生になりたい。それが無理なら通訳がいいな」と未来に思いをはせつつ、1年間の留学を終えて9月末に帰国した。しかし、「人生の目標」をかなえるために、いつの日か再び兵教大に戻ってくることを強く希望している。

日本での生活を
思い切り満喫
絶対にまた
戻ってきます

キラリな人

フランチェニー・エリーザさん

特別聴講学生(イタリア)

平成5(1993)年、イタリア・トリノ生まれ。トリノ大学在学中の昨年、「2015年度大使館推薦による国費外国人留学生(日本語・日本文化研修留学生)」として兵教大に留学するため来日。「日本人になるのは、可能か」というテーマで応募した「第57回外国人による日本語弁論大会」では、26カ国80人の中から予選を通過し、本選に出場。文部科学大臣賞を受賞した。今夏、日本語能力検定2級を取得。



※フランチェニーさんのスピーチの動画は(一財)国際教育振興会のウェブページ(http://www.iec-nichibei.or.jp/iec04_2.html)で見ることができます



データで見る兵教生

～平成27年度卒業生・修了生の就職状況等(平成28年5月1日現在)から検証～
兵教大生の就職状況

教員就職率は引き続き 全国トップクラス

平成27(2015)年度の「卒業生・修了生の就職状況等(28年5月1日現在)」によると、学部卒業生の教員・保育士就職率は87.8%と高く、全国トップクラスを10年以上維持している。また、専門職学位課程(教職大学院)修了生は87.8%、修士課程修了生は67.6%と、いずれも高い教員・保育士就職率を示している。さらに、卒業生・修了生ともに進学者を除く就職率が非常に高い点も特筆すべきところだ。

教職キャリア開発センターでは、多様な教職講座や就職相談、情報提供などを通して、学生の就職活動をサポートしている。学生の皆さんには、大学の教員就職への支援体制を大いに活用し、夢を実現してほしい。

頑張る仲間の存在が力に

教員採用試験に向けて、過去問題等をひたすら解き、教職キャリア開発センターで指導員の先生と面接の練習をしました。そこには教員を目指して頑張る仲間がたくさんいて、みんなの姿が私の力になりました。無事合格し、今は神戸市の小学校教員です。先輩や同期の先生方に支えられながら頑張っています。まだまだ未熟ですが、かわいい子どもたちと共に成長していこうと思います。



たか はし さき え
高橋咲江さん
 神戸市立伊川谷小学校教諭
 (2年生担任)
 (学校教育学部学校教育系コース
 平成28年3月卒業)

HYOKYO'S DATA



ふく だ けん じ
福田健二さん
 兵庫県立
 のじく特別支援学校教諭
 (修士課程障害科学コース
 平成28年3月修了)

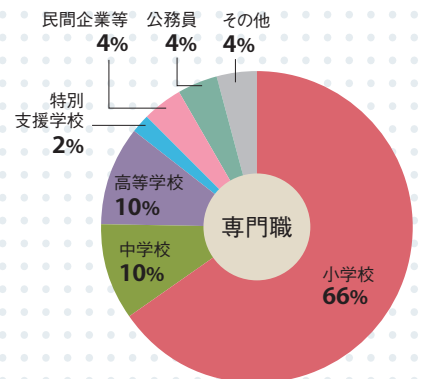
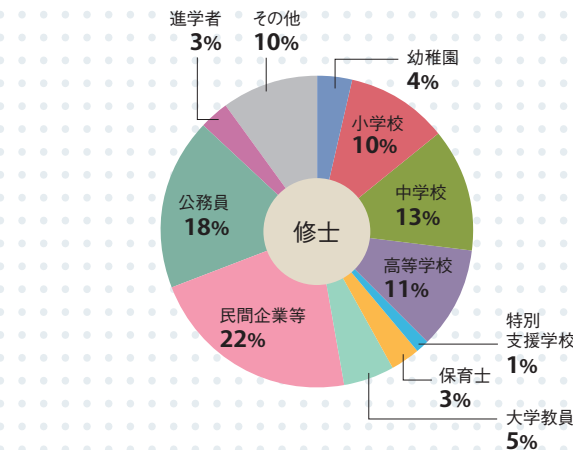
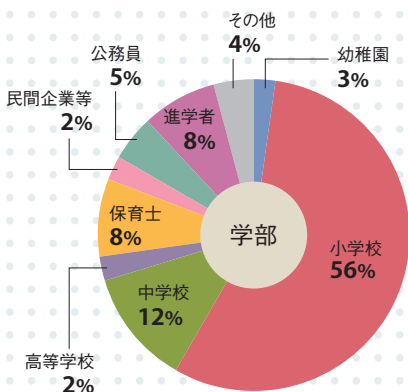
学生時代の経験が授業の糧に

教科書のない特別支援学校では授業づくりが難しく、認知の幅も広いためどのような狙いを立てて授業を展開するかが重要になります。狙いがしっかりしていても、自分が楽しめていない授業は生徒も同様であると学びました。学生のうちにいろいろな経験を楽しむことで人間性が豊かになり、それが良い意味で授業に影響するのではないかと思います。今をしっかりと楽しんでください。

【平成27年度卒業生・修了生の就職状況等について】

卒業生・修了生数	就職者												進学者	その他	教員・保育士就職率	就職率
	教員就職者							保育士	大学教員	民間企業等	公務員					
	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計										
学部	169	4(1)	95(28)	20(11)	4(2)	0(0)	123(42)	14	0	4	8	13	7	87.8%	95.5%	
修士	133	5(4)	14(9)	17(4)	14(8)	2(1)	52(26)	4	7	29	24	4	13	67.6%	89.9%	
専門職	49	0(0)	32(10)	5(3)	5(1)	1(1)	43(15)	0	0	2	2	0	2	87.8%	95.9%	

※数値は平成28年5月1日現在 ※修士・専門職の修了生数には現職教員・留学生を含まない ※()内の数は臨時的任用者を内数で示す ※教員・保育士就職率および就職率の算出には卒業生・修了生数から進学者を除く。さらに修士の教員・保育士就職率の算出には修了生数から臨床心理学コース・修了時60歳以上の修了生・社会人(夜間クラス)学生を除く



ワタシのイチオシ

心に残る映画、つい口ずさむ音楽、
行きつけのスポットや思い出の一冊。
みんなにも薦めたい私のお気に入りを紹介。



「奇跡のシンフォニー」
DVD ¥3,800(税抜)
※平成28(2016)年10月現在
発売元/東宝東和



らん ちん しん
蘭 陳晨さん
(中国)
特別聴講学生

MOVIE

心を揺さぶる感動のファンタジーです

孤 児院で暮らす11歳のエヴァンは、両親の顔を知らなくても、あざけられても「きっと会える」と信じ、一人旅に出ます。自らの音楽的才能を生かし、音楽の力で両親を見つける不思議なミュージック物語です。

日常の光景とごく普通の音が、主人公の少年によつてリズムとメロディーに満ちた世界に変わっていきます。エヴァンがギターを気ままに弾いている場面や、両親と初めて出会うシーンはワクワクし、何度見ても飽きることはありません。主役のフレディ・ハイモアの純粋な笑顔もお薦めのポイントです。

力強い歌声に勇気づけられます

「出会えて良かったと心から言える人が少しずつ増えてく」。このフレーズから、皆さんはどんな人々を思い浮かべることができますか。

私は「現実という名の怪物と戦う者たち」を聴く度に、部活動の仲間を思い浮かべます。現実にはうまくいくことばかりではない。しかし、仲間と支え合うことで、一人ではたどり着けない目標も達成することができると、そんなふうにも勇気づけられるフレーズが詰まっています。

疾走感のあるメロディーに乗せ、高橋優さんの力強い歌声が元気をくれる曲です。

MUSIC



しみず じゆ の
清水寿乃さん
学校教育学部
言語系コース4年



高橋優
「福笑い/現実という名の怪物と戦う者たち」
発売元/ワーナーミュージック・ジャパン



砥峰高原
神河町川上801



しみず しょう こ
清水翔吾さん
学校教育学部
学校教育系コース4年

SPOT

心洗われるような自然に包まれては

春 夏秋冬の変化に富んだ日本。せっかく住んでいるのにこれを味わわないのはもったいない！そこで今回は、四季折々の変化を楽しむことのできる砥峰高原をご紹介します。

大学から車で約1時間半。神河町の奥地に砥峰高原があります。春は見渡す限りに花が咲き、夏には緑の大地に涼風が吹き、秋にはススキが美しく、冬には一面雪化粧を施します。またイベントも多く、3月には山焼き、9月には観月会、10月にはススキまつりが毎年開催されています。雄大な自然に包まれ、日々の疲れを癒やしてみませんか。

生徒の理解を第一に

皆 さんは学級が荒れていると感じたとき、学級の全員を見ることができていますか。荒れた生徒ばかりに目が向いていませんか。学級の大半は、状況次第で真面目にも不真面目にもなる生徒たちです。こういった生徒たちの変化に目が届いていますか。

私がこの書を手にとった理由は、荒れた学校で、自分は正しい生徒指導ができるかと疑問に思ったからです。本書は実際に起きた事例を基に、さまざまな立場からの取り組みが書かれています。荒れた学校での生徒指導に不安・心配を覚える方は、ぜひ本書を手にとってください。

BOOK



いい はら たか のり
飯原崇仁さん
専門職学位課程
授業実践開発コース2年



吉田順
「荒れには必ずルールがある」
学事出版

URESHINO BULLETIN BOARD

教材文化資料館平成28年度後期展「夢と青春の修学旅行」

「修学旅行」をテーマに、明治から平成までの行き先や学びの変遷、修学旅行ができるまでのプロセス、伊勢などの三大旅行先を紹介。各地の名所をイラストにした顔ハメ看板を設置し、記念写真の撮影ができます。また、懐かしの修学旅行専用電車を模型で再現。皆さまを、楽しい「夢と青春の修学旅行」の世界へご招待します。



↑「参宮旅行地図」京都市教育会編纂 昭和18年



→「修学旅行記念写真」小津鹿鳴館 大正10年

- 10月3日(月)～2月28日(水) 8:30～22:00 (土曜・日曜・祝休日 10:00～17:00)
- 教材文化資料館(附属図書館内)
- 休 11月19日(土)、23日(水)、12月28日(水)～1月4日(水)、14日(土)、15日(日)、24日(水)、2月25日(土)、26日(日)
- 教材文化資料館 ☎ 0795-44-2362

公開授業 「アフタヌーントーク ーグローバルに生きるー」

平成28年4月に専門職学位課程に設置されたグローバル化推進教育リーダーコースの授業を一部公開します。



授業科目
【グローバルイシュー論】
「核廃絶について」
秋葉忠利さん
(元広島市長、数学者)

● 平成29年1月9日(月) 13:30～15:00 (受付 13:00～) 前 神戸ハーバードキャンパス・兵教ホール ￥無料

- 本学ホームページ (<http://www.hyogo-u.ac.jp/>) トップ「イベント情報」をご覧ください
- 神戸ハーバードキャンパス ☎ 078-361-5023

教材文化資料館 「やっぱり大事!?ノート指導」展特別イベント 「田山修三氏講演会」

7月24日 教育子午線ホール

教材文化資料館「やっぱり大事!?ノート指導」展(平成28年8月末終了)の特別イベントとして開催。県内外から100人を超える参加者があり、「板書の達人」こと北海道教育大学岩見沢校の田山修三特任教授が語るノート指導の重要なポイントやアイデアに熱心に耳を傾けていました。



平成28年度課外プロジェクトが決定

学生生活の一層の充実を図ることを目的に、大学院生、学部生が自主的に企画した取り組みに対し活動資金を支援する事業。今年度は下記の4件が採択されました。

【今年度採択の課外プロジェクト】※敬称略

カンボジアと日本をつなぐ手紙トラベラー
廣瀬綾香(社会系コース4年)

加東市秋のフェスティバルにおける
創作ブース
山本樹(学校教育系コース3年)

HICプロジェクト
鎌田奏(文化表現系教育コース2年)

「災害食」
知ろう!作ろう!広めよう!プロジェクト
小林裕子(行動開発系教育コース2年)

↓27年度採択プロジェクトの様子



↑28年度採択プロジェクトの様子

小野市との連携による地域連携推進事業 「理科&科学の 地域でのサイエンス祭」

7月28日～31日 小野市うらおい交流館エクラ

子どもたちの科学への興味・関心を育む地域の夏恒例のイベントを開催。6年目を迎える小野市との地域連携推進事業で、今年は4日間で延べ1,200人が来場しました。参加した子どもたちからは「楽しかった。来年も実験や観察をしたい」という感想が多く寄せられました。



第38回教育実践学フォーラムを開催 「意思決定のメカニズム ー心理学と脳科学の知見からー」

8月27日 大阪大学中之島センター

教育実践学の社会への発信と貢献を目的に連合学校教育学研究科が開催しており、今年度のメインテーマは「『意思決定』の科学と実践」。京都大学この未来研究センターの阿部修士特定准教授による講演には約60人が参加し、活発な質疑応答も行われました。



国際シンポジウム 「子育て支援にみられる地域性 ー子育て文化の比較からー」

9月17日 兵教ホール

これからの子育て支援を、地域性や文化の違いなど国際的な視点から考察することを目的に開催。約80人の参加者は、チュロンコン大学(タイ王国)のAnyamane Boonsue講師や千葉大学教育学部の富田久枝教授の講義、名須川子理事・副学長の総括等に聞き入っていました。



● 募集
● 催し
● 過去の出来事
● 支援事業
● 日時
● 場所
● 休業日
● 受講料
● 申し込み先
● 問い合わせ先

現場の課題にお答えします!

名須川知子理事・副学長に
兵庫県から感謝状贈呈

7月、名須川知子理事・副学長に兵庫県から感謝状が贈呈された。これは、県環境審議会特別委員として環境行政の推進に貢献してきたことに対するもの。名須川理事・副学長は、「兵庫県の環境学習をますます発展・充実させていくように、ということだと思います。今後も教育推進に尽力していきたいです」と語った。



山田錦80周年+加東市制10周年
記念酒ラベルを作成

山田錦生誕80周年と加東市制10周年を記念した日本酒が、地元の神結酒造から発売された。このラベルは大学院修士課程芸術系教育コースのラベル考案チームが担当し、同コースの前芝武史准教授と金度享助教の監修の下、主に1年の儀間文音さんの案で作成した。

☎ 神結酒造 ☎ 0795-48-3011



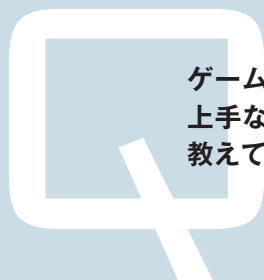
(左から)金助教、岡崎紗佑美さん(修士1年)、儀間さん、前芝准教授

第36回大学院同窓会総会・
研究大会大阪大会を開催

8月6日から2日にわたり、ホテルアウィーナ大阪で開催。22都府県の修生、在学生、大学関係者136人が参加した。6日は教育実践研究活動等の表彰や福田光完学長の講演等のほか、特別企画の落語家の桂吉弥さんによる上方落語「かぜうどん」では会場が大きな笑いに包まれた。7日は大阪歴史博物館や適塾、愛珠幼稚園などを見学した。



キャンパス
トピックス



ゲームとの
上手な付き合い方について
教えてください。



おがわ ひさし
小川修史

生活・健康・情報系教育コース准教授

「ゲーム」というと、ネガティブなイメージを抱かれる方も多いと思います。さて、ゲームは本当に子どもに悪影響を及ぼすのでしょうか。

実は、悪影響を及ぼすのはゲームそのものではなく、ゲームにより「会話」が発生しなくなることにあります。近年は携帯型ゲーム機やスマートフォンが登場により、一人でゲームに熱中する姿をよく見るようになりました。確かにこの状態では依存状態になりやすく、ゲームをやめさせることはなかなか難しいでしょう。

私は保護者向けの講演などで、子どもと一緒にゲームをプレイすることを勧めています。ファミコン世代の著者は、よく家族と一緒にゲームをしました。家族と一緒にプレイすることで、ゲームを介して会話が発生しますし、ゲームそのものよりも会話がすごく楽しくかつた記憶が鮮明に残っています。実は、ゲームにはコミュニケーションを促進するツールとしての可能性が大いにあるのです。

近年、教育現場においてもタブレット端末が導入されるようになってきました。が、考え方は同じです。アプリを単に個別に使わせるのは、決して有効な活用方法とはいえません。なぜなら、そこにはコミュニケーションが発生していないからです。タブレット端末もゲームも「コミュニケーションを促進するツールの一つ」という意識を持って活用することで、逆に子どもの主体性を引き出すことが可能になります。ただし、使用する前のルール作りが重要！ルールを子どもと一緒に作り、しっかりと守る。これもコミュニケーションですね。コミュニケーションを通して作ったルールは、子どもたちもきっと守ってくれます。

皆さんも一度、「コミュニケーション」の観点でゲームに向き合ってみてはいかがでしょうか。

兵庫教育大学からのお知らせ

☎=申し込み先 ☎=問い合わせ先

平成29年度学生募集 大学院連合学校教育学研究科(後期3年だけの博士課程)

専攻別学生募集人員

専攻	連合講座	募集人員
学校教育実践学専攻	学校教育方法 学校教育臨床	10人
先端課題実践開発専攻	先端課題実践開発	5人
教科教育実践学専攻	言語系教育 社会系教育 自然系教育 芸術系教育 生活・健康系教育	17人
合計		32人

- ◎出願期間 12月2日☎～9日☎(消印有効)
- ◎試験日 29年2月12日☎
- ◎実施場所 神戸ハーバーランドキャンパス(神戸市中央区)
- ◎学生募集要項(入学願書)の請求方法 封筒の表に「博士課程学生募集要項請求」と朱書きし、角形2号の返信用封筒(請求者の郵便番号、住所、氏名を明記し、300円分の切手を貼り付けたもの)を同封して郵送してください。また、ホームページからも請求できます。
- ◎請求先 〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1兵庫教育大学入試課
- ☎入試課 ☎ 0795-44-2067

大学院学校教育研究科 説明会

大学院学校教育研究科(修士課程、専門職学位課程)の教育課程や専攻・コースの概要などについて説明します。個別相談や修了生・在学生の体験談を紹介する時間も設けます。

- ◎開催日 12月17日☎、29年1月21日☎、28日☎※13:30から
- ◎場所 神戸ハーバーランドキャンパス(神戸市中央区)
- ☎☎企画課
☎ 0795-44-2359 ☎ 0795-44-2011
☎ office-kaikaku-t@hyogo-u.ac.jp

第35回大学祭(嬉望祭)

今年のテーマは「つみぎ〜make it together

～」。誰かが上に立ってやるのではなく全員が主体性を持ち、協力し合いそれぞれの力、作品を積み上げていくことによって一つの大作を作っていくという意味を込めています。模擬店やクラブ発表をはじめ、「ダンス甲子園」や「青年の主張」などさまざまな企画イベント、芸能人のステージやバンド演奏など盛りだくさんの内容です。

- ◎開催日 11月12日☎、13日☎
- ◎場所 加東キャンパス
- ☎学生支援課
☎ 0795-44-2050 ☎ 0795-44-2049
☎ office-gakusei-t@hyogo-u.ac.jp

平成29年度 園児・児童・生徒募集

附属幼稚園
◎募集人員

- 3年保育(3歳児)40人
- 2年保育(4歳児)20人
- ※29(2017)年4月1日時点での年齢
- ◎出願期間 10月24日☎～28日☎
- ◎選考結果発表、抽選日 11月26日☎
- ☎附属小学校事務室 ☎ 0795-40-2218
- 附属小学校・中学校
- ◎公示日 11月1日☎
- ☎附属小学校事務室 ☎ 0795-40-2218
- ☎附属中学校事務室 ☎ 0795-40-2224

附属中学校研究発表会

- 研究テーマ「ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた、わかりやすく、やりがいのある授業づくり(3年次)」
- ◎開催日 11月12日☎
- ◎場所 附属中学校
- ◎内容 研究授業I・II、授業研究会、全体会・研究発表、講演会
- ☎☎附属中学校(担当:大山)
☎ 0795-40-2222 ☎ 0795-40-2225
http://www.hyogo-u.ac.jp/middle/

附属幼稚園研究発表会

- 研究テーマ「保育の質を高めるために一記録から幼児のよさを共有する」
- ◎日時 12月3日☎9:00～16:00
- ◎場所 附属幼稚園
- ◎内容 保育公開、研究協議、講演(講師:兵教大大学院学校教育研究科・橋川喜美代教授)
- ☎☎附属幼稚園(担当:壺井)
☎ 0795-40-2227 ☎ 0795-40-2228
☎ kinder@hyogo-u.ac.jp
http://www.hyogo-u.ac.jp/kinder/

附属小学校研究発表会

- 研究テーマ「『子ども文化教師をつなぐ(4年次)仮)」
- ◎開催日 1月28日☎
- ◎場所 附属小学校
- ◎内容 授業公開、講演会、分科会
- ☎附属小学校(担当:有吉)
☎ 0795-40-2216 ☎ 0795-40-2219
☎ element@hyogo-u.ac.jp

http://www.hyogo-u.ac.jp/element/

兵庫教育大学古本募金のお知らせ



兵庫教育大学古本募金は、読み終えた本やDVDなどを提供すると、その査定換金額が兵教大に寄付される取り組みです。集まった寄付金は、本学の教育研究活動などの充実や学生の奨学への支援などに役立てられます。皆さまからのご支援をお待ちしています。

【寄付の方法】

- ◎在学生、教職員
附属図書館内に設置している古本回収ボックスに投函してください。
- ◎卒業・修了生、一般の方
古本等を段ボール箱に詰め、電話(☎0120-29-7000)またはインターネット(http://kishapon.com/hyogo-u/)で申し込んでください。宅配業者が自宅まで集荷に伺います(5点以上で送料無料)。
- ☎図書館事務室
☎ 0795-44-2060 ☎ 0795-44-2059
☎ office-tosyo-r@hyogo-u.ac.jp

指導主事の力量形成に向けたシンポジウム

- 平成28年度教員の資質向上のための研修プログラム開発事業の一環として、シンポジウム「指導主事の力量形成と資質向上ー子供の成長と学力向上のためにー」を開催します。
- ◎開催日 12月3日☎
- ◎場所 神戸ハーバーランドキャンパス(神戸市中央区)
- ☎☎企画課
☎ 0795-44-2359 ☎ 0795-44-2011
☎ office-kaikaku-t@hyogo-u.ac.jp

▶▶編集後記

★今号はいつも以上に多様性をテーマにお送りしています。「教育最前線」は「理論と実践の融合」研究レポート3本掲載、キラリな人はイタリアからの特別聴講学生、そして衝撃のくまモン。本学には実にユニークな人材がそろっているにもかかわらず、そのほとんどを知らずにここで過ごしてきました。ぜひ、皆さんにも知っていただきたいです。(は)
※バックナンバーは兵庫教育大学ホームページをご覧ください

◎表紙

「理論と実践の融合」に関する共同研究のうち、松村京子教授の取り組みの様子です。ゼミのメンバーで分担して、子どもの実行機能(抑制能力・ワーキングメモリ)と自己制御能力を個別に測定しています。幼稚園児や小学校低学年児童が楽しみながらできるゲーム形式の測定課題です。



◎あなたの声を聞かせてください

- 「教育子午線」では、読者の皆さまの声を生かした誌面づくりを目指しています。はがきかメールでご意見、ご感想を寄せていただいた方にオリジナルのボールペンまたは付箋紙を進呈します。
- 【あて先】
〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1
兵庫教育大学大学広報室
☎ 0795-44-2431 ☎ 0795-44-2009
☎ office-koho@hyogo-u.ac.jp



兵庫教育大学モバイルサイト



スマートフォン



携帯電話